

ジェダイの騎士の人間力
— 『スターウォーズ』のフォースをもとに—

2017年12月8日

帯碗毛伸

要旨

近年、スターウォーズから学ぼうという機運がもりあがっている。とりわけジェダイの騎士の名言がネット上で引用され閲覧件数が日に日に増加している。そこでジェダイの騎士の人間力とは何かを報告する。人間力は自己にあるというのが結論である。なぜなら、ジェダイはフォースを人間構造のなかに見出しているからである。確かに、フォースは暗黒面がある。しかし、暗黒面は自己を自我としてしまった弊害であって、フォース自体は自己にあることに違いはなく、それを善用することも可能である。実際、ダースベーダーも暗黒面にいったんは陥ったがそこから立ち直っている。

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. フォースと自己（理由）
4. 結論
5. おわりに

1. はじめに

2015年に『スターウォーズ論』（河原一久）について同年に『スターウォーズ学』（清水節・柴尾英令）が出版されていることからスターウォーズから学ぼうとする姿勢がうかがわれる。ネット上でもスターウォーズの名言を取り上げているサイトがいくつもある。

スター・ウォーズ (Star Wars) は、映画、本、ビデオゲーム、トイ、アニメ等によって展開される、サイエンス・フィクション分野のフランチャイズである。また、ジョージ・ルーカスによって生み出された架空世界を指す名称でもある。スター・ウォーズの物語は、サイエンス・フィクションや政治ドラマ、古典神話に共通してみられる典型的なモチーフを取り入れている。スペース・オペラ (サイエンス・フィクションのサブジャンル) の代表的作品であるスター・ウォーズは、大衆文化に広く浸透し、大きな興行的成功を収めたシリーズのひとつである。



ジェダイの騎士：オビ・ワン・ケノービ

人気シリーズのスターウォーズの魅力を支えているものの一つにフォースがあげられる。フォースはジェダイの騎士の能力をささえる実体である。その実体をめぐってそのまま原理主義的に信じる者もいれば比喩的に受け取る者もいる。柘野俊明は『スターウォーズ 禅の教え』のなかでフォースとは法力に対応するものであるとする。しかし、その法力を超能力的な解釈をしている点においては禅的ではない。そこで、このフォースとは何かを明らかにすることが本報告の目的である。したがって、本論の論点はフォースの現実生活における応用

可能な力であるという観点に立つところにある。さらにフォースが自己であるという知見を示す。

本論の展開は、先行研究としてフォースの見解を Wookieepedia をあげ、それをもとにフォースの自己性を示し、フォースがどのような思想的背景をもっていたかを明らかにする。

2. 先行研究

フォースに関する研究はこれまでその字義的解釈にとどまっている。スターウォーズ公開当初は「理力」と訳されていたがわかりづらいことから、そのまま「フォース」と翻訳されて現在にいたる。

tezomeya の『言葉のチカラとは フォース」と「理力」に関する一考察から』では、無意識的なニュアンスをもつとして、むしろ「理力」をよしとしている。

フォースに関する優れた検証にウーキーペディアがあげられる（以下ウーキーと称する）。フォース (The Force) は銀河系のあらゆる生命を繋ぐエネルギー場である。フォースの感応能力を持つ者はフォースの力を使うことが出来た。フォースの力は、細胞内に共生する微生物ミディークロリアンを通して引き出された。

「フォースは“生けるフォース”と“宇宙のフォース”という 2つの要素から成っていた」とウーキーは述べていることから、生体の外と内にあることになる。あらゆる生き物が持つ生けるフォースのエネルギーは、宇宙のフォースの中へと流れ込んで全てを結びつけた。また、フォースのエネルギーはミディークロリアンを通して個々の存在に働きかけた。フォースを研究・使用する代表的な組織として、フォースのライトサイドを信奉するジェダイ・オーダーと、フォースのダークサイドを信奉するシスが挙げられる。フォース=センシティブ (フォースの感応能力を持つ者) は、一度に多くの生命が失われた時などにフォースの乱れを感じるがあった。

フォース使用者は、フォースによって多くの能力を使うことが出来た。例えば攻撃者の接近を感知したり、物体を押し飛ばしたり、他者の思考に影響を与えたり (マインド・トリック)、未来の予見、フォース

の霊体となって死後にも意識を保つ術も可能となった。ダークサイドの使用者はフォースで相手の首を絞めたり、指先からライトニングを放つ技も使用した。ジェダイは若き訓練生たちに、フォースは防衛や説得、知恵、物質操作、優れた身体能力の発揮といった多くの用途に使用することが可能だと教えていた。

フォースに対して柁野(2015)は禅の教えと結びつける。つまりその時点で超能力的なフォースを相手にしていない。フォースの心的側面を禅にむすびつけていることになる。その著書の中でフォースを法力と結び付けている。法力は超能力を含意している。実際、柁野は東洋経済のブログのなかで「これらを見て、私は「フォース」は「法力(ほうりき)」かもしれないと思いました。フォースとほうりき、偶然にも音も似ていますね。「法力」とは、仏法を修行して得られた功德の力。法力を使ったという伝説で有名なのは弘法大師です。弘法大師が杖をつくると泉が湧き井戸や池となった、といった伝承は今も日本各地に残っています。」とのべている。つまりは超能力的意味合いを対応させている。柁野の対応づけはわかりやすいという定評がある。

3. フォースと自己

ダースベダーは映画の中で「惑星を破壊する力も、フォースが持つ力の比ではない」とのべている点からも、フォースの外的な機能に言及している。これに対して柁野の立場はやはり外的な機能をもつ法力を対応させている。もちろんそうした対応を否定するものではない。

禅で法力を指すときは法の力、つまり自己の在り様、さらにいえばとらわれない心を意味する。柁野がスター・ウォーズと禅を結びつけるならば、あくまで心という内的な機能に眼をつけるべきである。そこで本論はフォースの内的機能に着眼する。

内的機能とは心的機能のことである。心的機能とは自己である。仏道をなろうとは自己をなろうことという道元の言葉にあるように(『正法眼蔵』)、自己は道である。道とは而今、すなわち今の様子である。今の様子は外的状況も含む。すなわち、内外の境を越えている。ハイデガーで

いうところの現存在が脱自であることである。つまり、フォースを内的機能に対応させていながら外に抜け出ているのである。したがって、ここにきて内外にこだわることはもはや意味をなさなくなっている。エピソード5でヨーダがルークに次のようにいっていることでそのことが伺われる。

"Here, between you... me... the tree... the rock... everywhere!" (フォースはお前とわしの間にもある。木にも。石にも。いたる所にある！)

4. 結論

以上の考察をまとめると、ジェダイの騎士のいうフォースは外的なものとの内的なものがある。フォースを人間力として内的なものに対応させると、フォースとは自己であるということが出来る。しかし、自己とは脱自、すなわち今の様子としての外的なものに抜け出ている。その意味で内外を越えたものとしてとらえることが出来る。

5. おわりに

フォースのフォースたる由縁は実際の生活に使えるものである。実際の生活とは生きていること。この生きていることそのものが自己であるから、すでに生活に使っているものである。しかし、そのことに無自覚であるのと自覚しているものとは、使われているものと使っているものの違いがあるのである。フォースの自己性が明らかになることによって生活にフォースを活かしていけるようになる。今後この可能性を生活の中で観ていきたい。

最後に本報告をジョージ・ルーカス氏に捧げたい。フォースとともにあらんことを。

参考文献

- 柁野 俊明(2015)、『スター・ウォーズ 禅の教え エピソード4・5・6』、KADOKAWA
 清水節、柴尾英令(2015)、『スター・ウォーズ学』、新潮新書
 河原一久(2015)、『スター・ウォーズ論』、NHK 出版新書
 スター・ウォーズの言葉を通じて生活を向上させる評議会(2015)、『スター・ウォーズ ファンのに響いた 111 の言葉』、講談社